

1. 単元「リズムの重なりを意識し、息を合わせて《平野だんじりばやし》をえんそうしよう」
2. 研究主題との関連

音楽的感受力を高め、学びを創り続けるカリキュラムづくり ―郷土の伝統音楽を通して―  
～郷土の伝統音楽の「リズムの重なり」に対する知覚・感受を深める授業～

単元について

教材	「平野だんじり囃子」
指導内容	リズムの重なり / 副次的な指導内容:形式・速度
指導事項	A表現(1) イ 歌詞の内容、曲想を生かした表現を工夫し、思いや意図をもって歌うこと
単元の目標	リズムの重なりに関心をもって、意欲的に演奏をしている。(音楽への関心・意欲・態度) リズムの重なりを知覚・感受し、イメージに合った表現の仕方を工夫している。(音楽表現の創意工夫) リズムの重なりを感じて表現ができる。(音楽表現の技能)

子どもたちは、これまでに平野に伝わるさまざまな音楽に親しんできている。わらべうたや売り声の学習では、地域で用いられる言葉、地域の文化的背景がその音楽を形づくってきたことに気づくことができた。

〔人と地域と音楽〕生活・歴史と音楽とのかかわり(生活と祭り)・音楽の伝承と記録の理解(口伝)

夏に行われる「平野杭全祭り」のだんじり曳行は、子どもたちにとって生活の一部となっている地域の祭りである。多くの子どもたちは、祭りを観に行ったり、だんじりを曳いたりしている。このように、だんじり曳行における《平野だんじり囃子》は、子どもたちにとって、生活と密接に関わった身近な郷土の伝統音楽である。《平野だんじり囃子》は、各町で口伝で伝承されている。「コンジキジンジキジンジキンコンコン」という鉦のリズムを中心に、大太鼓・締太鼓のリズムが重ねられる。リズムの伝承においては、簡単な図形譜と口唱歌によって伝承されている。

このような生活経験・文化的背景を踏まえ、子どもたちにとってより身近な流町に伝承されている《平野だんじり囃子》を実際に伝承されている図形譜と口唱歌を用いて、唱えながら演奏をするという口伝の形式をとることで、音楽を伝承の型からまるごと体験することができるようにしたい。

〔音楽の仕組みと技能〕リズムの重なり

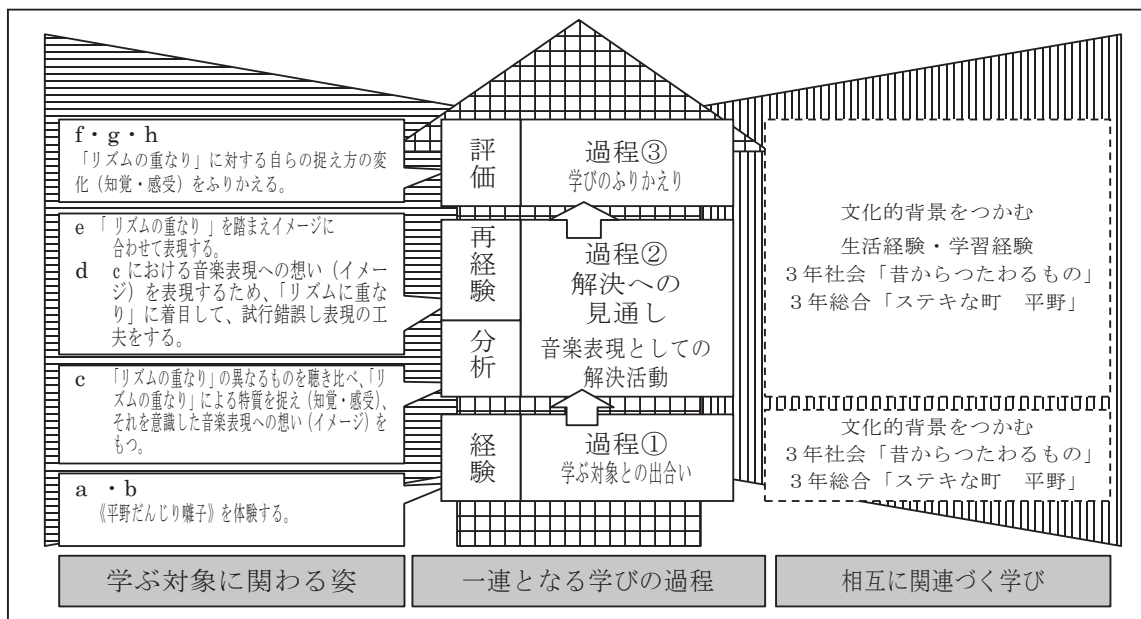
平野における《平野だんじり囃子》は、平野郷夏祭りにおけるだんじり曳行において欠かすことのできない音楽である。だんじりの曳行に合わせて、「囃子」が鉦・大太鼓・締太鼓で演奏される。鉦のリズムを中心に、大太鼓・締太鼓のリズムが重ねられている。

〔音楽と他媒体〕音・言葉・動きのかかわり

《平野だんじり囃子》は、口唱歌(言葉)を用いて楽器のリズム(音)が伝承されている。だんじり曳行の際に演奏され、《大阪締め》で出発し、曳行中は《平野だんじり囃子》が演奏し続けられ、《大阪締め》でだんじりが止まるという型が基本となっている。また、近年では、だんじり囃子に合わせて、手や指などを使って龍の爪や宝珠をとっているように見せたり、2匹の龍が離れたり近づいたりする姿をイメージした「龍踊り」(動き)が踊られている。

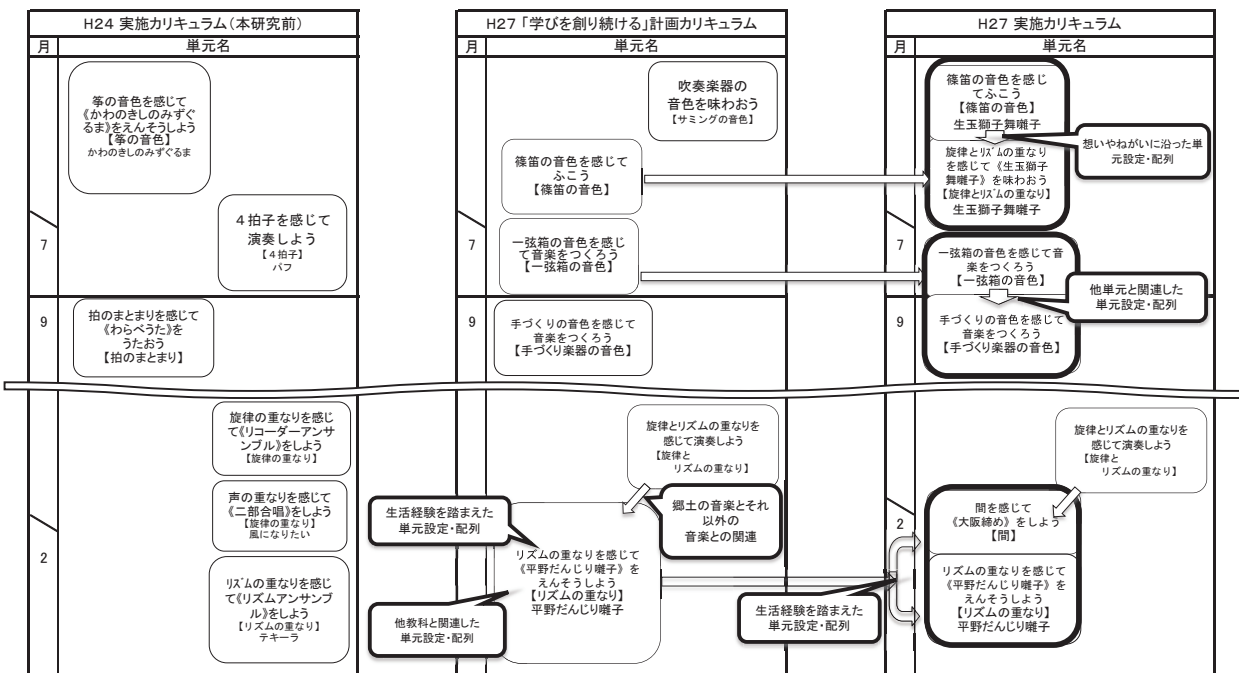
そこで、本単元では、導入において「龍踊り」を取り入れ、《平野だんじり囃子》のリズムの特質を身体で感じたり、だんじり曳行の順路を意識したりすることで、より音・言葉・動きのかかわりを感じながら、活動を進めていくことができるようにしたい。

3. 音楽的感受力を豊かに育む「子どもが学びを創り続ける過程」



#### 4. 学びを創り続けるカリキュラムづくり

主たる指導内容 (テクスチュア)	同教材による別指導内容
1年【うたとの重なりを意識してたいこのリズムをえんそうしよう】(テクスチュア/塚ふとん太鼓) ・うたと太鼓のリズムの重なりを感じて、えんそうする。	
2年【速さのちがいを意識して《平野だんじり囃子》をはやそう】(速度の変化/平野だんじり囃子) ・速さの違いを感じて、《平野だんじり囃子》に合わせて、はやす。	
3年【囃子詞とリズムの重なりを意識して《平野だんじり囃子》をうたおう】(リズムの重なり/平野だんじり囃子) ・囃子詞とリズムの重なりを感じて、《平野だんじり囃子》をうたう。	
4年【間を意識して《大阪締め》をうたおう】(間/平野だんじり囃子における大阪締め) ・間を感じて、《大阪締め》をうたう。	
4年【リズムの重なりを意識して《平野だんじり囃子》をえんそうしよう】(リズムの重なり/平野だんじり囃子) ・リズムの重なりを感じて、大太鼓・締太鼓・鉦で《平野だんじり囃子》を演奏する。	
5年【速さの違いを意識して《平野だんじり囃子》を演奏しよう】(速度の変化/平野だんじり囃子) ・速さの違いを感じて、大太鼓・締太鼓・鉦でオリジナル《平野だんじり囃子》をつくり演奏する。	



#### 5. 指導計画 (全5時間 本時第3時)

ステップ	学習活動	評価			時
		音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能	
経験	《平野だんじり囃子》を演奏する。				第1時 第2時 第3時 (本時)
1.	大太鼓・締太鼓・鉦を用いて、《平野だんじり囃子》を演奏する。	《平野だんじり囃子》に関心を持ち、意欲的に活動している。【観察・発言】			
2.	《平野だんじり囃子》の形式に合わせて演奏する。				
分析	《平野だんじり囃子》を聴き比べ、「リズムの重なり」の特質を捉える。				
1.	自分たちの《平野だんじり囃子》と伝承されているモデルとなる《平野だんじり囃子》を聴き比べ、「リズムの重なり」の特質を捉える。	↓	リズムの重なりを知覚・感受している。【観察・発言・ワークシート】		
再経験	「リズムの重なり」を意識して、《平野だんじり囃子》の表現の工夫をする。				第4時 第5時
1.	「リズムの重なり」を意識して、表現の工夫をする。	リズムの重なりに関心を持って、意欲的に活動している。【観察・発言】	イメージに合わせて、表現の工夫をしている。【観察・発言・ワークシート】	リズムの重なりを感じ、演奏することができる。【演奏】	
評価	お互いの《平野だんじり囃子》を聴き合い、「リズムの重なり」の特質を捉え、まとめる。				
1.	《平野だんじり囃子》を聴き合い、「リズムの重なり」の特質をまとめる。	↓	↓	↓	
2.	「リズムの重なり」についてのアセスメントシートに答える。				